

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動き 0歳児 ～手指の巧緻性および操作性の発達を促す環境構成
(把持・操作・積み上げ・崩し・投動作)～

<テーマの設定理由>

本活動は、布製の柔らかいブロックを活用し、0歳児の発達に応じた多様な「動き」を引き出すことを目的として実施した。具体的には、物を「つかむ」「持ち替える」「積む」「崩す」「投げる」といった基本的な操作を通して、手指の発達（微細運動）と全身の動き（粗大運動）の双方を促すことをねらいとした。

また、柔らかく安全性の高い素材を用いることで、子どもが主体的に試行錯誤しながら関わる環境を保障し、「自らやってみる」という探索意欲の育成にもつなげた。

2. 活動スケジュール

- ・年間計画：発達段階に応じた探索活動の一環として、鏡遊びを位置付け、使用方法や安全面について職員間で共有
- ・日々の保育：子どもの発達や興味に応じて環境に鏡の玩具を設定
- ・実施後：職員間で子どもの反応や発達の様子を共有し、関わり方や環境設定を検討
- ・職員会議：活動の振り返りを行い、子どもの自己認識の育ちや探索行動の変化について意見交換
- ・継続的改善：発達に応じた玩具の配置や関わり方の工夫を行い、次の活動へ反映（1年を通して活動を展開）

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内に布製のやわらかいブロックを複数配置し、子どもが自由に手に取れる環境を整えた。保育者は子どもの興味に応じて関わりながら、以下のような遊びが自然に生まれるよう援助した。

- ・ブロックを手に取り、握る・振る・叩く
- ・ブロックを積み上げる、または重ねる
- ・積み上げたものを崩す
- ・ブロックを前方へ投げる、落とす
- ・複数のブロックを両手で持つ、持ち替える

子どもは座位やつかまり立ち、しゃがむ姿勢など、それぞれの発達段階に応じた姿勢で活動に参加し、全身を使った遊びが展開された。

子どもたちは、手に取りやすい大きさと柔らかい感触のブロックに興味を示し、繰り返し触れたり握ったりする姿が見られた。特に、ブロックを積んで崩す遊びでは、「できた」「くずれた」という変化を楽しみながら、何度も同じ動作を試す様子が確認できた。また、ブロックを投げる動きでは、腕を大きく振る全身運動が見られ、投げた後の音や動きに反応して笑顔を見せるなど、因果関係への気づきも見受けられた。

さらに、両手にブロックを持つ、持ち替えるといった動作からは、手と目の協応や空間認識の発達がうかがえた。

保育者は、子どもの興味や発達段階に応じて言葉かけや動きのモデル提示を行い、遊びの広がりを支えた。

- ・「積めたね」「高くなったね」など成果を言語化
- ・投げる動作を安全な範囲で受け止め、繰り返しを保障
- ・子どもが安心して崩せる環境づくり
- ・無理に指示せず、子どもの主体性を尊重した見守り

また、安全面に配慮しながら、十分なスペースを確保し、他児との距離や動線にも留意した。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

本活動を通して、0歳児における基礎的な運動機能の発達（握る・離す・投げる・積む）が促進されたと考えられる。特に、柔らかい素材の使用により、子どもが安心して繰り返し挑戦できる環境が整い、主体的な探索行動が多く見られた点は大きな成果である。また、単純な動作の反復を通じて、因果関係の理解や達成感の獲得にもつながっており、認知面・情緒面の発達にも寄与していると評価できる。

今後は、ブロックの大きさや形状のバリエーションを増やすことで、より多様な動きを引き出す環境構成を検討する。また、転がる素材や音の出る素材を組み合わせることで、感覚的な刺激をさらに豊かにし、探索活動の深化を図る。

加えて、子ども同士の関わりが自然に生まれるような配置や援助を工夫し、社会性の芽生えにもつなげていきたい。